

## 田川市石炭・歴史博物館と友好館協定を締結

石川 孝織\*

釧路市立博物館は、2024年1月31日に田川市石炭・歴史博物館（福岡県田川市・以下「田川市博」）と友好館協定を締結しました。

当館と田川市博は、2007年から学芸員間での交流が始まり、「炭坑の語り部 山本作兵衛の世界」（2008年度）、「北と南を結ぶヤマ」（2009年度）、「山本作兵衛コレクション展 in 釧路」（2012年度）などの交流企画展を開催しました。山本作兵衛（1892～1984）は田川市を含む筑豊炭田に生きた炭坑夫であり、炭鉱の労働や技術、文化、生活について多くの記録画として残しています。田川市博には584点が収蔵され、遺族の所有する作品などとあわせて687点が2011年、ユネスコ「世界記憶遺産」（世界の記憶／Memory of the World）に選定されています。

また2009～13年度には「急速転換」に関する共同研究を、田川市博の福本寛学芸員、太平洋炭硯OBの佐藤富喜雄氏、筆者にて実施しました。これは、太平洋戦争末期の1944年8月、制海権を奪われ石炭の海上輸送が困難になった釧路炭田と樺太の炭鉱を保坑・休坑とし、その労働力を九州などの炭鉱へ移動させた国策で、終戦直後、1945年秋までの約1年間、釧路の炭鉱労働者が経験した「戦時下の九州のヤマ」について、80～90歳代の方々への聞き取りを中心に調査を行い、大きな反響がありました。ほかにも人的交流では、戦前期、田邊儀助など三井田川鉱業所で活躍した技術者が同じ三井系である太平洋炭硯でも活躍した、という史実もあります（田邊は釧路臨港鉄道の社長も務めました）。

さらに、この2館の交流を中軸に、石狩、常磐、宇部、三池、高島・崎戸松島（長崎）の各炭田の博物館や市民研究団体の共同開催として全国炭田交流企画展「炭鉱（ヤマ）のあるマチ」（2012年度）の実施、そして「全国石炭産業関連博物館等研修交流会（全炭博研）」の発足など、各産炭地間の交流促進へも大きく寄与しました。

いっぽう、田川市博と新平溪煤礦博物園區との交流は

2000年代後半からあり、その関係から筆者も2011年に同園区を訪問しています。その後、2016年に両館（園区）が友好館協定を締結、田川市博の仲立ちにより当館も交流を行ってきましたが、2019年には同園区の龔俊逸館長が釧路市長を訪問、その場において当館との友好館協定締結の方向性が示され、コロナ禍での停滞はありましたが、2023年1月に新平溪煤礦博物園區と当館も友好館協定の締結に至ったという経緯があります。さらに3館の連携強化に向けた機運が高まりを見せ、このたびの田川市博との友好館協定の締結に至りました。



締結式で並ぶ龔館長・森田館長（中央）・松本館長（右）

田川市博で行われた締結式には、同館から森田竜治館長・福本寛学芸員ら、当館から松本敦館長と筆者が出席、新平溪煤礦博物園區からも龔館長がオンラインで出席し、当館と田川市博の連携強化はもとより、新平溪煤礦博物園區も含めた「3館トライアングル協定」としての連携強化を確認しました。

今後、これまで以上に研究、人的交流を深め、お互いの地域の炭鉱の歴史文化を紹介する展示なども積極的に行い、歴史文化を素材とした地域学習、地域間交流、さらに観光のPRにもつなげていきたいと考えています。

この交流は宮崎大学（もと西日本新聞）の佐伯浩之氏、太平洋炭硯OBの佐藤富喜雄氏、当館OBの加藤春雄氏ほか、多くの方々のご支援により継続・発展してきたものです。文末になりましたが、ここに記して御礼を申し上げます。

### 【当館と友好館協定を締結している博物館】

#### 田川市石炭・歴史博物館（福岡県田川市）

1983（昭和58）年設立。筑豊炭田の代表的炭鉱の一つ「三井田川鉱業所」跡に建つ。田川市は「炭坑節」発祥の地であり、同館は世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」（炭坑記録画）を所蔵。炭鉱と考古資料を中心に展示。

#### 新平溪煤礦博物園區（台湾炭鉱博物館/新北市平溪区）

2002（平成14）年設立の炭鉱跡を活用した私立博物館。周辺は九份や金瓜石鉱山など著名観光地も多い。坑口など施設を保存、体験乗車ができるトロッキなどもあり、台湾人だけでなく外国人観光客も多く来館。